

531 ABO血液型不適合腎移植における腎シンチ・レノグラムの有用性

水入苑生、新藤雅仁、種ヶ島正照、宮城盛淳、酒井謙、林郁子、伏見達夫、平山順郎、小原武博、長谷川昭（東邦大腎）、高野政明、小堺加智夫（同中放RI）

ABO血液型不適合腎移植14例を対象とし^{99m}Tc-DTPA、¹²³I-OIHによる腎動態検査の有用性を検討した。術後5例に無尿が認められたが、血型不適合による超急性拒絶反応の2例はRI集積がバックグラウンドより低いabscent kidneyを呈し、可逆性ATNの2例は排泄欠如によりOIHでは明らかな腎RI集積を認め、一過性尿管閉塞の1例は排泄相遅延のみが認められた。血型不適合による血管型拒絶反応で130日目に血液透析再導入した1例では血清クレアチニン上昇に先行して著しい腎血管相の悪化が認められた。腎シンチ・レノグラムは血型不適合腎移植後合併症のモニタリングに極めて有用と考えられた。

532 精索静脈瘤の核医学的検討

守谷悦男、川上憲司（慈恵医大 放）白井 尚、

大石幸彦（同 泌）浅原 朗（JR東京総合病院 放）

男性不妊症の原因の一つである精索静脈瘤を核医学的な経時的画像、静態画像、Time-activity curve(TAC)、又、ホルモン・精液所見と検討した。

理学的所見等で精索静脈瘤が疑われた35症例を対象とした。患者は立位で陰茎を挙上し、次に^{99m}Tc-HSA-D(740MBq)を肘静脈よりボラス注入した。経時的・静態画像を撮像し、又、TACでは5つのパターンに分類し、触診所見との比較検討をおこなった。

早期像は重症例のみ有所見であった。静態像と触診所見とは対応傾向が認められた。精液・ホルモン異常とは無関係であった。遅延像、静態像については、体位で有意差が認められた。TACは体位と無関係で、正診率、無病率からも精索静脈瘤の検出には最適と思われた。

533 陰嚢シンチにおける精索静脈瘤の血液プール量の評価

神戸大放 田中豊、山路滋、北垣一、平田みどり、山崎克人、井上善夫、河野通雄、小野市民放 浜田俊彦、神戸大泌 守殿貞男

精索静脈瘤の診断に於ける陰嚢シンチの有用性はすでに認められているが、静脈瘤の血液プール量に関しては検討されていない。我々は1回採血を加えることにより静脈瘤の血液プール量の測定を行ない評価したので報告する。対象は精索静脈瘤が認められた患者55例で、Tc-99m HSA-DTPA注入5分後の静態像を撮像した後に採血した。この血液サンプルを静態画像と同じ条件で撮像し単位体積当たりのカウント数を求め、静態画像より得られた静脈瘤部のカウント数より血液プール量を算出した。結果は血液プール量はシンチによる重症度と良く相関し重症度評価における1つの指標となりうると考えられた。